

自分たちの力で遊びや活動を進める幼児の育成

～劇づくりにおける関わり合いや話し合い活動の援助を通して～

石垣市立わかば幼稚園

教諭 玉城 志織

I テーマ設定の理由

近年、社会が急激に変化し、価値観・生活様式の多様化が進む中で、少子化や核家族化など幼児を取り巻く環境も著しく変化している。幼児の育ちについても人・地域・社会との関わり希薄化によるコミュニケーション能力の不足、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていないなどの課題が指摘されている。

平成30年4月に施行された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」では、3歳児以上の幼児教育について整合性が図られた。幼児教育は環境を通して行う教育を基本とし、自発的な遊びを通しての指導を中心とする中で育みたい3つの資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示された。領域「人間関係」においては、ねらい(2)に「工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わうことや、内容の取扱い(1)に「諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもつこと等の文言が新たに加えられた。人と関わる力を養うために教師は、身近な人との関わりの中で自己発揮しながら多様な感情を体験できるような環境構成や、関わりを深め、試行錯誤しながらやり遂げることができるような援助の工夫、場面に応じた様々な役割を果たしていくこと等が求められている。

本園は、4～5歳児混合21名の幼児が在籍している。豊かな自然に囲まれ、また市内でも珍しい幼小中併置校と年齢幅の広い人的環境に恵まれ、行事や日常生活で小中学生に憧れの気持ちを持ちながら交流を楽しんでいる。園内においては様々なことに興味関心をもち、友達と好きなキャラクターになりきって遊んだり、砂場遊びや運動遊びなどを楽しんだりしている。しかし中には、夢中になれる遊びを見付けられず傍観している子、遊びを展開したいときや問題が起きたときに、自分たちで話し合って解決することができず、遊びを諦めてしまう子の姿も見られる。それは、幼児が好奇心や探求心をもって挑戦する「自立心」や、友達と協力して活動を進める「協同性」を育むための環境構成や援助の工夫が足りなかったことが要因の一つと考える。

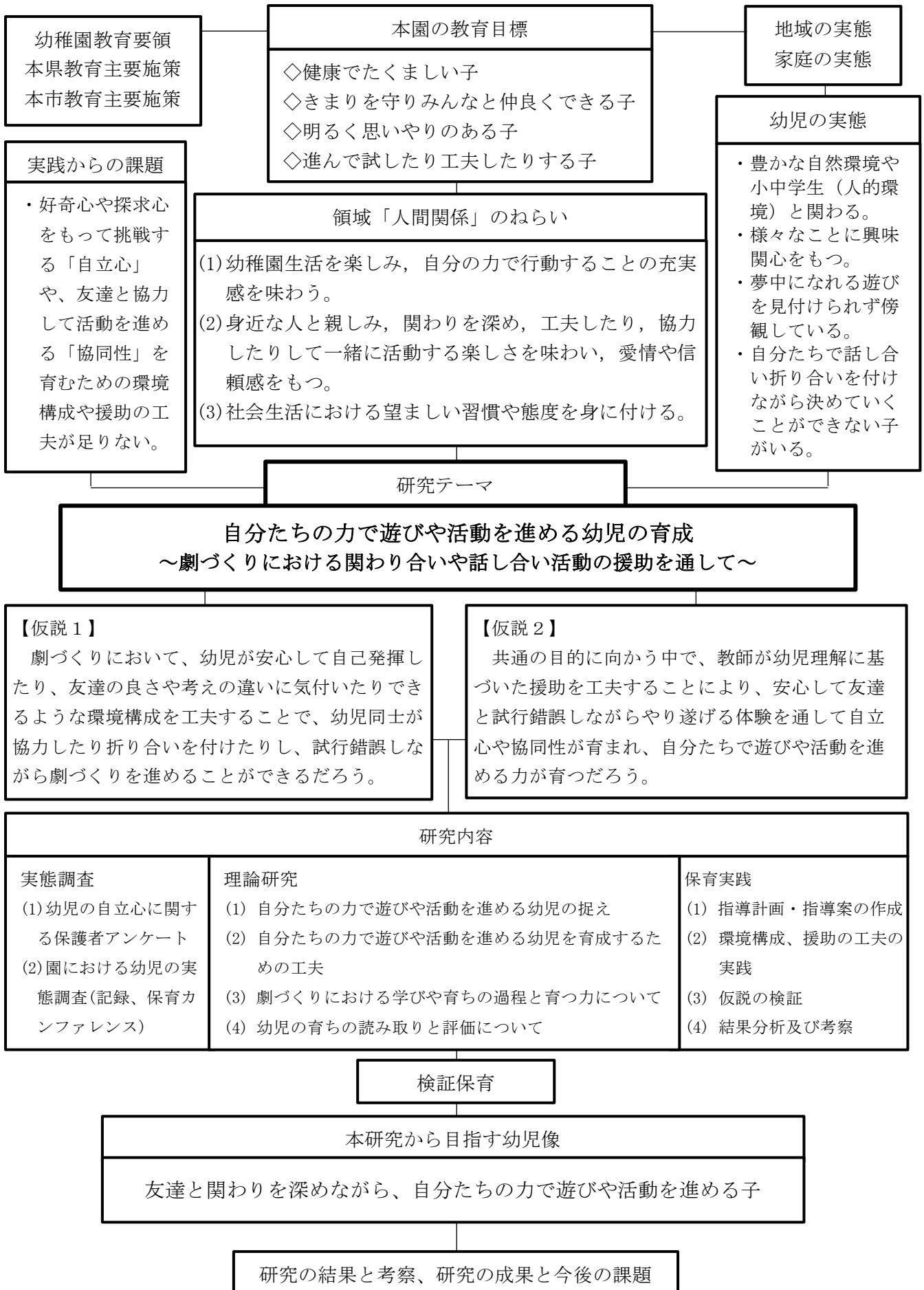
そこで本研究では、一人一人に番や役割があること、集団の中で考えを伝え合い、話し合う場があること、共通のイメージや目的をもち、友達と協力して作り上げる経験ができることで自立心や協同性が育まれると考え、劇づくりを設定する。教師は、幼児がやりたいことや役割を見付けて挑戦する中で自己発揮したり、互いの主張がぶつかり、葛藤や折り合いを付けたりする体験を重ねられるよう、幼児理解に基づいた環境構成や援助の工夫に努める。自己発揮や試行錯誤しながらやり遂げることで自信が付き、幼児の自立心や協同性が育まれ、自分たちの力で遊びや活動を進める幼児の育成につながるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

仮説1 劇づくりにおいて、幼児が安心して自己発揮したり、友達の良さや考えの違いに気付いたりできるような環境構成を工夫することで、幼児同士が協力したり折り合いを付けたりし、試行錯誤しながら劇づくりを進めることができるだろう。

仮説2 共通の目的に向かう中で、教師が幼児理解に基づいた援助を工夫することにより、安心して友達と試行錯誤しながらやり遂げる体験を通して自立心や協同性が育まれ、自分たちで遊びや活動を進める力が育つだろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



IV 研究内容

1 自分たちの力で遊びや活動を進める幼児の捉え

(1) 自分たちの力で遊びや活動を進める幼児とは

本研究の目指す幼児像、「自分たちの力で遊びや活動を進める幼児」とは、遊びや活動の中で主体的・対話的で深い学びをしている幼児と捉える。汐見(2017)は「さあ、子どもたちの『未来』を話しませんか」の中で「主体的」「対話的」「深い」について下記のように定義している。

- ① 「主体的」・・・ 人に言われてではなく、自分からやりたいと思っている姿。興味のあることに自分から関わり、自分自身が学びの主人公であること。
- ② 「対話的」・・・ 自分ひとりで解決しようとしなくて、人と直接対話し刺激し合っていること。顔を見ながら直接対話し、理解し、信頼関係を作ろうと意識することが肝心。
- ③ 「深い」・・・ 思わず「はは～ん」「そうなんだ」と腑に落ちること。自分の持っている知識と新しい情報が頭の中で結びつき、子どもの感情が動く。

この定義をもとに、目指す幼児像と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を関連付けると、次のように考えることができる(図1)。なお、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿とは、幼児教育で育みたい3つの資質・能力(知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力の基礎、学びに向かう力・人間性等)について、幼児の育ちを見るとき視点であり、特に5歳児後半に見られるようになる具体的な姿である。本来、どれか1つを取り出して育てようとするものではないが本研究の目指す幼児像に迫るため、関連性の高い項目のみを取り上げる。

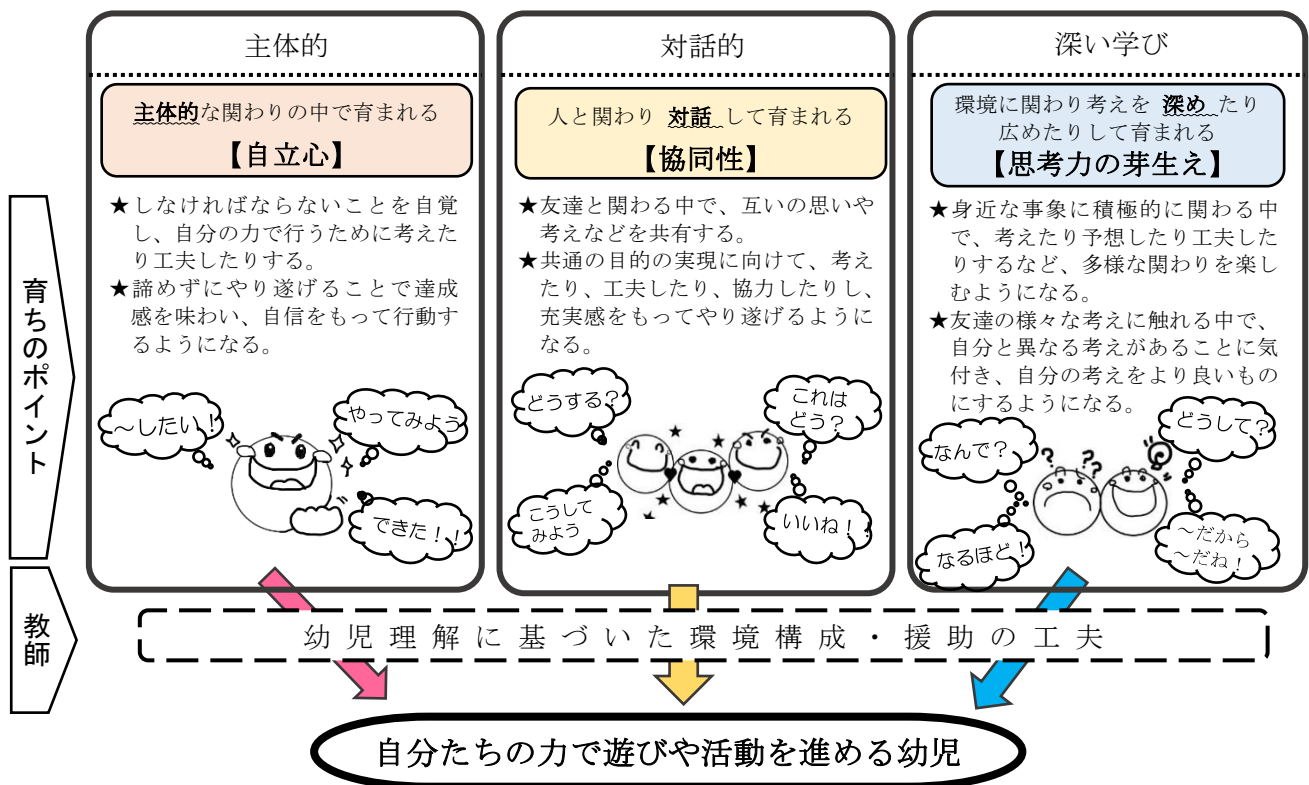


図1 目指す幼児像と育ちのポイント

(2) 目指す幼児像と領域「人間関係」の関連について

幼稚園教育要領の人との関わりに関する領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目的としている。

幼児は親や保育者との信頼関係を基盤に安心して過ごし、人との関わりを広げていく。また、人との関わりを広げていく中で、友達と一緒に過ごすことの心地よさを味わい、仲間関係が始まる。一緒に遊ぶ体験や、いざこざなどの葛藤体験を通して、他者の感情や意図の理解、自己主張(自己発揮)・自己抑制・自己調整(折り合い)の力を発達させる。

(3) 保護者アンケートから見える課題

研究にあたり、「自立心」の育ちについて、保護者アンケートを行った。

① 調査内容・目的

家庭における遊びや生活の進め方、友達と関わる力について調査し、本研究の資料として役立つ。

② 調査方法

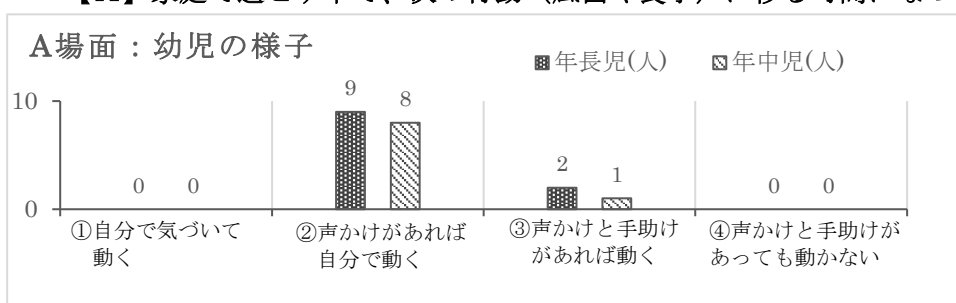
対象：石垣市立わかば幼稚園 幼児 20名の保護者(1名休園中の為) 回答率：100%

期間：令和3年10月25日(月)～10月28日(木)

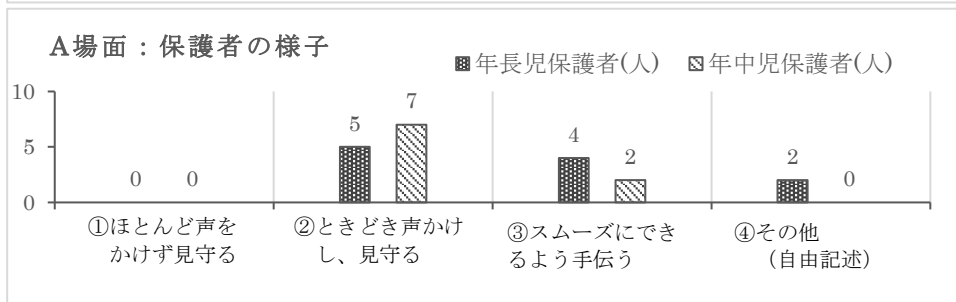
③ 回答方法

【A】～【E】の場面における、家庭での幼児と保護者の様子について、最も当てはまる番号を選択する。

【A】家庭で過ごす中で、次の行動（風呂や食事）に移る時間になったときの様子について



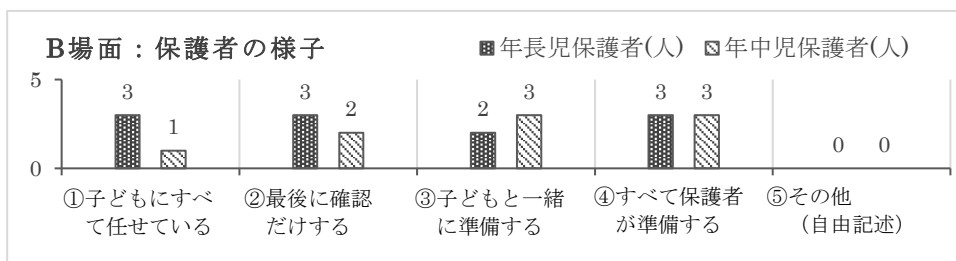
《A場面の考察》
 およそ8割の幼児が保護者の声かけがあれば自分で動いているが、保護者の対応の中にはスムーズにできるよう声かけや手助けをしてしまっている様子も3割近く見られる。幼児が園でも家庭でも同じように見通しをもって行動ができるよう、保護者に園での様子や援助を伝えていきたい。



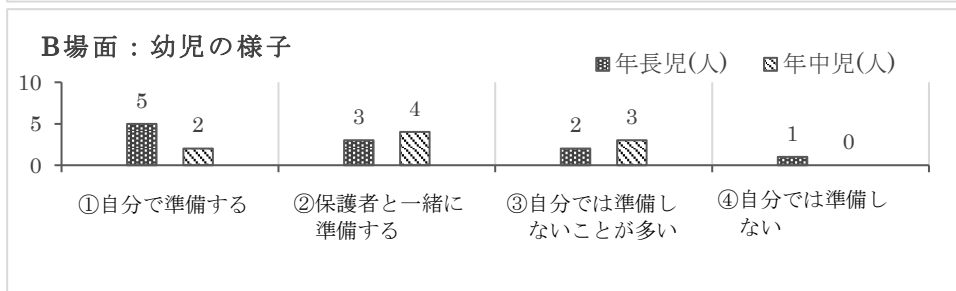
(自由記述)

- ・声をかけるが、すごい(たくさん)声かけないと聞かないときもある。
- ・常に声をかけている。行動するまでが遅い。

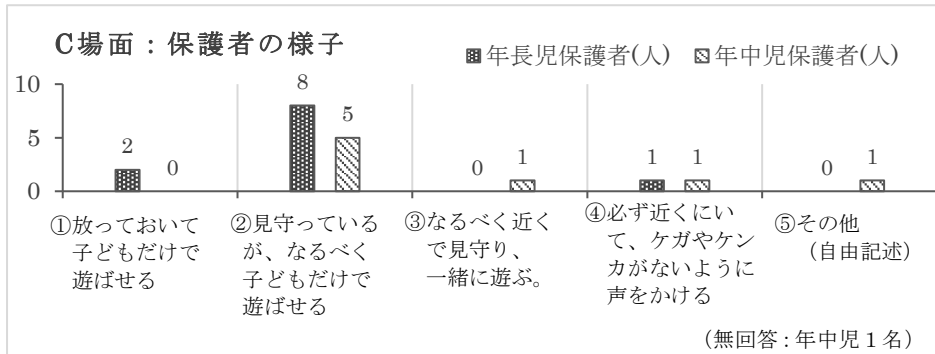
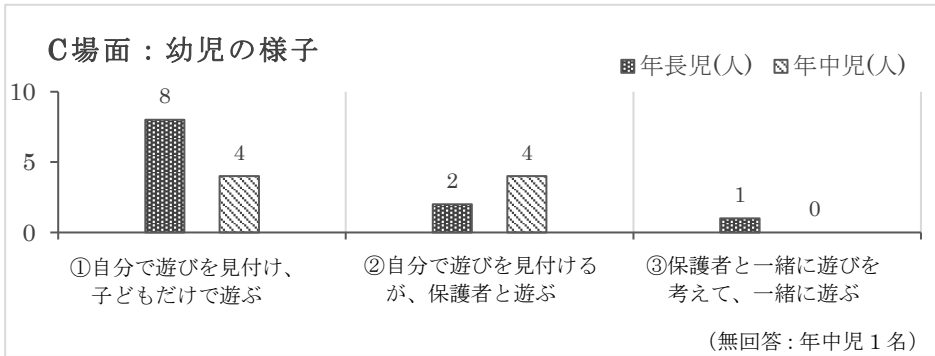
【B】幼稚園の持ち物の準備の様子について



《B場面の考察》
 ・年中児は発達段階から、保護者と一緒に準備したり、全て保護者が準備したりすることが多い。
 ・年長児の中にもすべて保護者に任せることが多い幼児が1割いる。就学に向けて「自分でできる」という意識づけや、自分で取り組めるような工夫が必要だと感じた。
 ・年長児、年中児どちらの保護者にも発達段階に応じた関わり方や育ててほしい力などについて共通理解を図る必要を感じた。



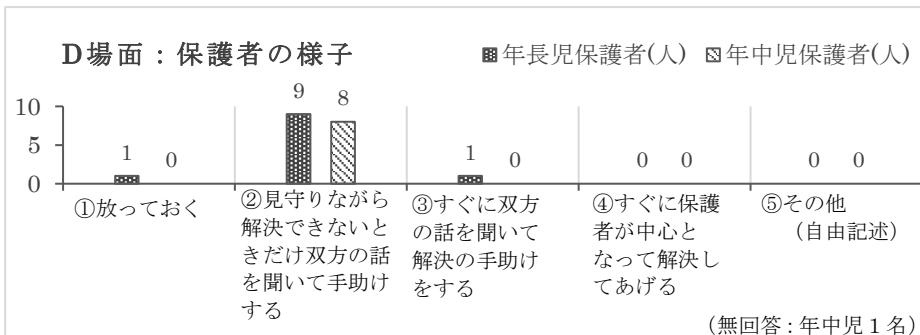
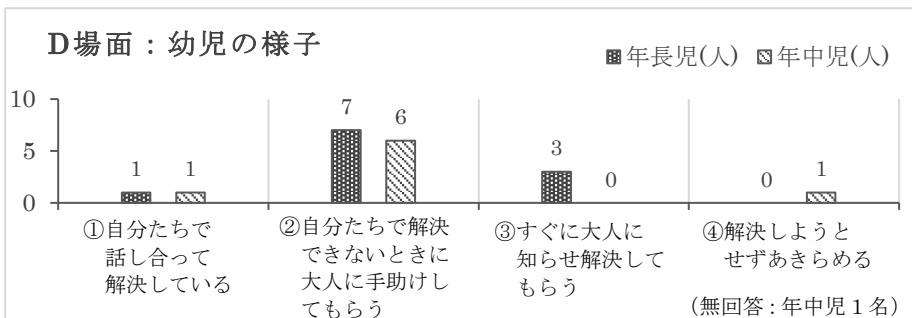
【C】 家庭で遊ぶ様子について



《C場面の考察》

- ・およそ6割の幼児が自分で遊びを見付け、自分たちで楽しむことができている。
- ・コロナ禍や兄弟姉妹の関係から保護者との遊びを楽しむ幼児も見られる。少数ではあるが、2割の幼児が遊ぶものを決めるときも遊ぶときも保護者に依存している姿も見られ、園での姿と一致している。
- ・保護者においては幼児の遊びを尊重し、見守っているとの回答が多い。しかし、中にはケンカやケガがないようにすぐ声をかけてしまう保護者も見られる。過干渉になりすぎないように伝えていきたい。

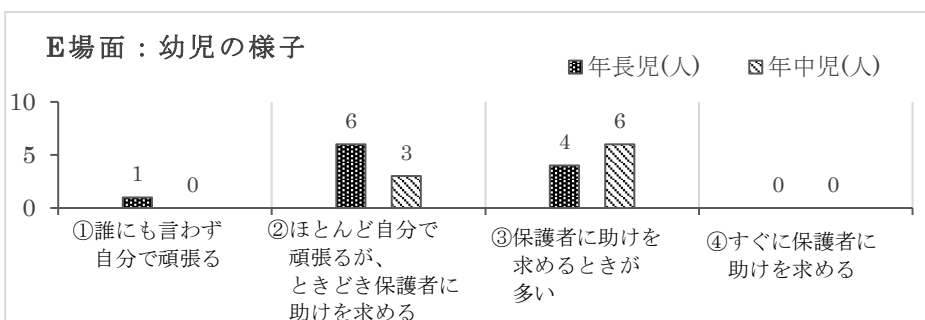
【D】 友達や兄弟姉妹と、けんかや物の取り合いが起きたときの様子について



《D場面の考察》

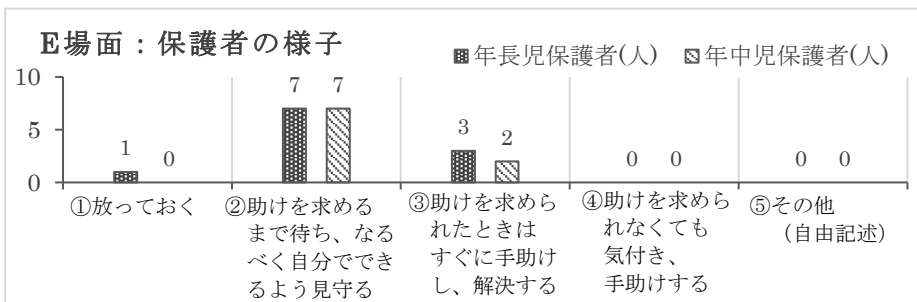
- ・およそ2割の幼児のトラブルへの向き合い方が、すぐに大人に知らせ解決してもらおうとする、解決せずに諦めるなど、園での課題と一致している。
- ・保護者の対応ではなるべく幼児同士で解決してほしい気持ちと見守ろうとする姿が見られた。
- ・自由記述において、幼児がすぐ怒ったり泣いたりすることや自分の思いを伝えられないという悩みや心配している様子も見られた。思いを伝え合う力を育めるように援助していきたい。

【E】 困ったことや自分でできないことが起きたときの様子について



《E場面の考察》

- ・年長児でも大人に手助けを求めることが多い幼児が3割おり、保護者もすぐに応えてしまう様子が見られる。
- ・自分で諦めずにやってみる体験を多く積み、「自分でできる」という自信をもたせたい。



《E場面の考察》

- ・保護者の中には、自分で頑張
ってほしいが、時間がかかる
ことに悩み、また助けを求め
ることができないことを心
配している。
- ・「自立心」の芽生えを保護者にも
伝えていきたい。

＜アンケート結果・自由記述からの考察＞

幼児については集団生活における姿や課題と概ね一致している。自分で考えて動いたり、自分でや
ろうとしたりする幼児がいる一方で、すぐに保護者を頼ってしまう幼児もいる。「自分でやってみよう
とする」「やってみたらできた」という経験を重ねて、自信をもてるようにする必要があると考える。

保護者は、幼児に対してなるべく自分でさせよう意識しているようだ。しかし、そう意識をして
いても、つい手助けしてしまう、かまいすぎてしまうなどの悩みや、家庭以外の場所で思いや考えを
うまく伝えられていないのではないかなどを心配する様子、また、どこまで手助けしていいのか分から
ないなどの意見も見られた。園で「頑張っていること」や「できるようになったこと」を伝え、年齢
に合わせたためあてについても共通理解を図る必要があると考えられる。

2 自分たちの力で遊びや活動を進める幼児を育成するための工夫

(1) 幼児を「理解する」こと

神長・岩立・岡上・結城（2019）「幼児理解の理論と方法」において、幼児理解をすることにつ
いて、「子ども一人一人の行動の特性や発達特性（その子どもらしい見方、考え方、感じ方、関
わり方など）、健康・安全に関する状況等に関する理解を深めることが、一人一人の子どもの特性
や発達に即した保育の展開を可能にする」と述べている。主体的・対話的で深い学びにつながる
ような保育の展開を実践するためにも、幼児理解が重要であると考えられる。神長らの「幼児理解か
ら保育の構想への流れ」の図を一部抜粋して記す(図2)。

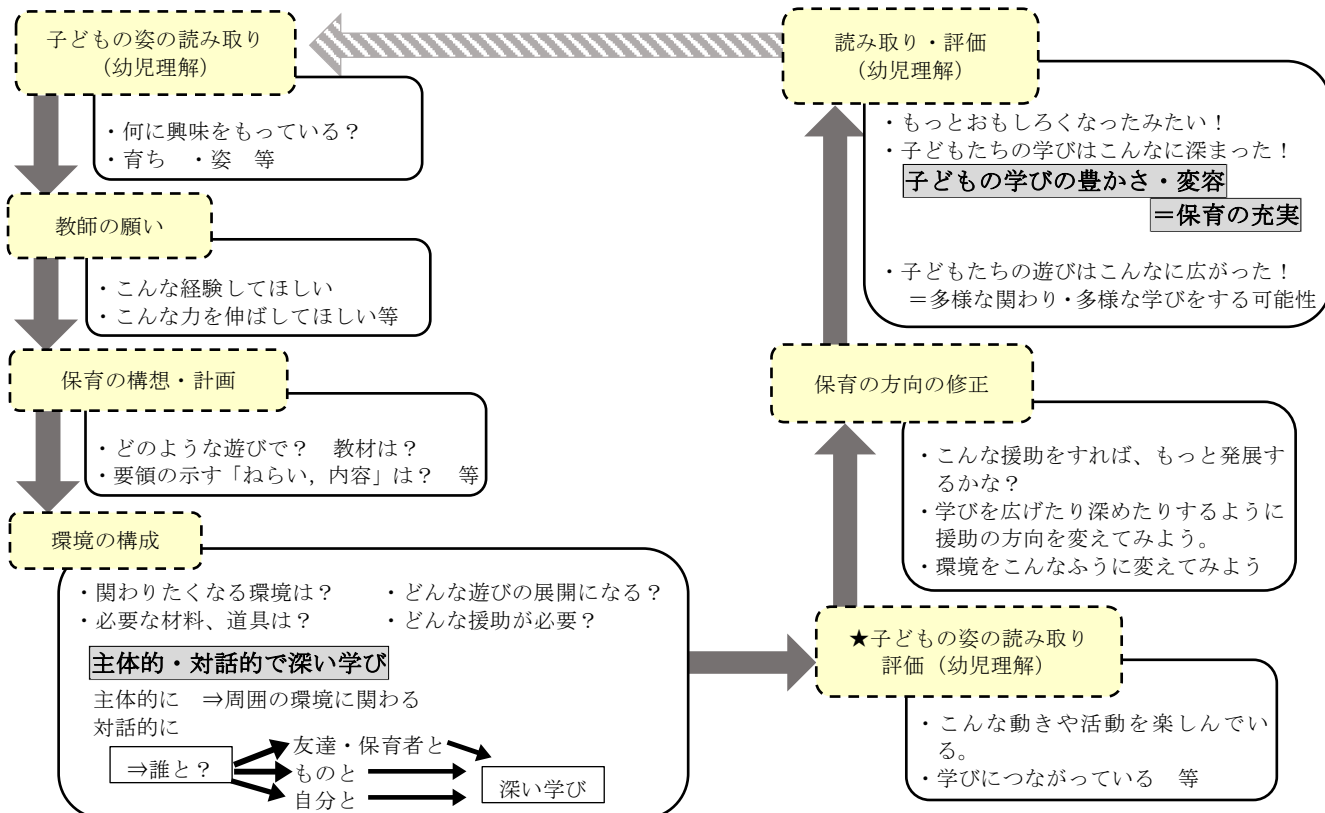


図2 幼児理解から保育の構想へ 神長・岩立・岡上・結城（2019）（一部抜粋）

(2) 幼児理解を深める教師の基本的な姿勢

保育は幼児理解から始まると言われ、教師がどのように幼児理解をするかによって、願いや援助の方向性が変わってくる。神長ら(2019)は幼児理解を深めるための教師の基本的な姿勢として次のようにまとめている。

- ① 温かな関係を作る（温かな関心を寄せる、触れ合う）
- ② 子どもの内面の動きに応じる（共に考える、共に行動する、育ちや状況を重ね合わせ理解）
- ③ 子どもの立場に立って受け止めたり、理解したりする
- ④ 理解を深めるために
 - － 記録（エピソード記録、日誌や日案をもとに記録）
 - － 保育者間の話し合い
 - － 家庭とともに（登降園時、おたより、面談、保護者会で互いに情報を発信し受け止めあう）

(3) 環境構成の工夫

幼児教育における環境とは遊具や素材だけではなく、「人・物・場」など幼児が関わるすべてのものを指す。環境構成とは幼児が関わる環境について、活動のねらいの達成や幼児の園生活・学びが豊かなものになるよう、幼児の成長・発達に合わせて工夫し、構成していくことである。本研究においては、幼児が興味関心をもって主体的に活動し、友達との関わりを深めるための環境構成について考える。本研究の目指す幼児像を育成するための環境構成について人・物・場に分けて整理した（表1）。

表1 自分たちの力で遊びや活動を進める幼児を育成するための環境構成の例（筆者作成）

人	≪教師≫・安心できる関係 ・幼児を理解する ・教職員同士の協力体制 ・幼児との信頼関係	≪友達≫・考えや思いを伝え合える友達 ・考えや思いが違う友達 ・励ましたり認め合ったりできる友達 ・一緒に活動する人数、メンバー
物	・興味関心をもてる絵本の配置 ・情報機器の使用（動画撮影→視聴できる環境）	
場	・作ったり試したりしたくなる場 ・安心して自己発揮できる（思いや考えが言える、やりたいことができる）場 ・思いや考えを伝え合い、話し合う場 ・自分や友達のいいところや頑張りに気付ける場（場所・時間・雰囲気） ・じっくり取り組める十分な時間の確保	
	・楽しい雰囲気 ・励まし、認め合う場 ・活動の振り返りができる場 ・共通の目的や約束、自分の育ちの可視化	

(4) 援助の工夫

幼稚園教育要領において、活動の展開と教師の援助について「幼児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう必要な援助をすること」と示されている。幼児が活動の中でやりたいことが十分にできない、途中で挫折してしまう、自信を失ってしまうこと等がないよう、また幼児にとって活動が充実し、発達を促す体験につながるよう、必要な援助を重ねることが求められている。本研究において幼児は、集団の中で自分の思いや考えを主張（自己発揮）し、ときに葛藤し折り合いを付け（自己調整）ながら、友達と関わりを深め、共通の目的に向かい試行錯誤することで協同性が育まれていくと考え、そのための教師の援助についてまとめる。

① 折り合いを付けるとは

幼稚園教育要領解説の領域「人間関係」内容(8)「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする」の解説において、「イメージや目的を共有し、それを実現しようと、幼児たちが、ときには自己主張がぶつかり合い、折り合いを付けることを繰り返しながら、工夫したり、協力したりする楽しさや充実感を味わうようになっていく。」とある。

この折り合いを付けることについて、無藤・古賀（2016）は「社会情動的スキルを育む『保育内容 人間関係』において、幼児が自分の思いを様々に表現し（「思いを出す」、みんなへとつながりを広げ（「つながる」、自分がどうしたいのか自分自身と向き合っていく（「向き合う」）ことを繰り返し、折り合う心「気持ちを調整する力」が育まれていくとしている。

無藤ら（2016）の気持ちを調整する力を育む保育における3つの要素を参考に、幼児が自己発揮しながら気持ちを調整（自己調整、折り合い）するまでの教師の援助について次のようにまとめた（表2）。

表2 幼児の自己発揮から自己調整をするまでの教師の援助

気持ちを調整する発達の視点の3つの要素	気持ちの調整につながる過程（・）	「教師の援助の3つの要素」と具体的な援助（○保育者の援助 □環境構成 ★具体的な援助）
「思いを出す」	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いに気付く 自分の思いを出す（動きや表情） 自分の思いを伝える（言葉） 	<p>「受け止める」</p> <p>○表情やようすから思いを読み取り受け止める援助 ★温かく見守る ★共感する ★気持ちを受け止める ★認める ★問いかける ★一緒に考える ★待つ ★思いを引き出す □幼児の関わりの広がり合わせた保育者との距離 ★安心できる雰囲気づくり</p>
「つながる」	<ul style="list-style-type: none"> 友達の話聞く 友達の思いや考えの違いに気付く 友達に働きかける 話し合う 自分の意見が通る 解決策や折衷案を出す 	<p>「つなぐ」</p> <p>○思いを言葉で伝えたり、知ったりできるように代弁し、つなぐ援助 ★足りない言葉を補う ★代弁する ★問いかける ★違いを考える間を大切にする ★認める ★励ます ★一緒に考える ★見守る □幼児同士の関わりが生まれる遊具や材料の配置や数 ★発達に合った挑戦する遊びを取り入れる ★ルールのある遊びを楽しむ機会をつくる</p>
「向き合う」	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身と向き合う 解決策を受け入れる 納得する 折り合いを付ける 	<p>「ともに向き合う」</p> <p>○自分を振り返り、自分と向き合う幼児を支える援助 ★認める ★一緒に考える ★価値づけする ★互いに納得しているかを表情や様子から読み取る □自分自身が振り返ることができる時間や間、場所を確保すること ★話し合い活動 ★発表タイム</p>

※無藤ら（2016）が作成した「気持ちを調整する姿を育む保育における3つの要素」の表を参考に、気持ちの調整につながる過程（・）と具体的な援助（★）を筆者が追記した。

3 劇づくりにおける学びや育ちの過程と育つ力について

(1) 劇づくりとは

田川・兵庫保育問題研究会（2010）は「劇づくりで育つ子どもたち」の中で、劇づくりについて、「舞台上で観せることをめざして、集団でより良い劇をつくりあげること」としている。本研究においては、日常生活の中で幼児が興味関心のあるテーマや物語を見付け、イメージを共有し、役になりきって遊んだり表現したりする演じ遊びの過程を経て、話の流れや登場人物、セリフや動き、必要な道具等を集団で話し合い、教師の援助のもと、幼児の力で劇を作りあげていくことと定義する。また、4歳児・5歳児の発達段階や個の育ちによって自己発揮や協同性の力が違うことを理解し、劇づくりの活動の中で個に応じた必要な経験ができるように工夫する必要がある。

(2) 劇づくりとその過程で育まれる力、教師の援助について

劇づくりでは興味関心を引き出し、イメージを共有するところから始まり、物語や登場人物を決めたり、道具を作ったりするなどの様々な過程がある。それぞれの場面で幼児理解を深め、教師の役割や援助について考え適切に行うことで、幼児は多様な経験をし、様々な力が育まれていくと考える。

田川ら(2010)が示している劇づくりの流れをもとに、その過程で育まれる力、教師の役割や援助について、次のように考え、表にまとめた(表3)。

表3 劇づくりで育つ力と教師の援助

劇づくりの流れ	幼児の姿	幼児の育つ力	教師の役割・援助
【開始期】 ・劇の軸になるテーマや物語を決定する。	○たくさんの絵本から、どの物語がいいか考える。 ○やってみたい物語を友達と話し合う。 ○全員で話し合い、決定する(▲、■)。	【自立心】 *諦めずにやり遂げる。 *やりたいことに挑戦できる。 *しなければならないことを自分の力でやり遂げる。 *集団の中で自分の思いや考えを伝える。 *うまくいかないときに立ち直ることができる。	【幼児に対して】 ・目的を明らかにする。 ・幼児を肯定的に捉える。 ・幼児理解を深める。 ・モデルになる。(やりすぎない!) ・認める。 ・共感する。 ・ヒントを出す。 ・活動の流れが生まれるような問いかけをする。 ・見守る。 ・十分に考えたり話し合ったりできるような計画に見通しをもつ。 ・思いや考えを伝え合える場づくり。 ・必要に応じて代弁者になる。 ・思いや考えの橋渡しをする。 ※幼児主体であることに留意し、先導しすぎたり援助しすぎたりしてしまわないように気を付ける。
【初期】 ・登場人物になりきり、いろいろな場面を想像して遊ぶ。	○登場人物や場面についてイメージを広げる。 ○イメージしたものを楽しみながら表現し、見せ合う。	【協同性】 *友達とイメージを共有する。 *共通の目的に向かって協力する。 *友達の思いや考えを受け止める。 *思いや考えの違いに気付く。 *友達の気持ちや立場を考えて行動する。 *自分の気持ちをコントロールする。 *折り合いを付ける	
【中期】 ・演じる場面(ピース)を決める。 ・場面を膨らませ、演出する。 ・場面をつなぐ。 ・必要な道具や衣装を考える。 ・配役を決定し、つないだ場面で演じてみる。	○どの場面を劇に入れるか、場面の順番等を話し合って決める(▲、■)。 ○自分がどの役をしたいかを考え、伝える(▲)。 ○話し合いをし、配役を決める(■)。 ○場面を演じてみて、必要な道具や衣装について考え、材料や作り方を話し合う(■、▲)。	【その他】 *想像力*充実感*達成感 *表現を楽しむ。 *対象の生き物をよく観察したり調べたりする。 *活動に見通しをもつ。 *約束やルールの大切さに気付く。 *友達や年下の子を思いやる。	
【後期】 ・道具や衣装を仕上げ。 ・場面ごとに演じ、表現の仕方をより良くする。	○衣装や道具を作る。 ○場面ごとに見せ合い、声の大きさや表現の仕方などより良くするために試行錯誤する(■)。 ○発表会本番に向けて気持ちを高め、友達と励まし合う。	*公共の施設を大切に使う。 *時計を意識して行動する。 *文字を使った看板づくりや掲示。 *絵本に親しむ。	【保護者に対して】 ・園通信の発行 - 育ちを読み取る視点 - 劇づくりのねらい、様子 - 育ってきている姿 - 今頑張っていること - 葛藤場面 - 気持ちの動き - 教師の援助
【発表会当日】 ・進行や道具の出し入れ等、自分達で行う。	○自分たちで協力し合い進行する。 ○緊張しながら励まし合い乗り越えようとする。		

▲…自分の気持ちを言えない子が予想されるところ

■…幼児同士の葛藤や意見のぶつかり合いが予想されるところ

※田川浩三・兵庫保問研編著『劇づくりで育つ子どもたち』 参考に筆者が作成

4 幼児の育ちの読み取りと評価について

(1) 具体的評価基準を用いた幼児の育ちの読み取り

① 具体的評価基準とは

幼児の育ちについて、数値的評価ではなく、具体的な育ちや行動を示したものである。評価基準を設けることで、評価の視点を明確に捉えて読み取ることができ、また職員間で共有することが可能になると考える。ただし幼稚園で評価を行う際には、他の幼児と比較をするものや、一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意する。

② 自己発揮や協同性の育ちの変容についての具体的評価基準

本研究の目指す幼児像に迫るために、「自立心」と「協同性」の育ちについて具体的評価基準を設けた(表 4)。なお、年齢基準については目安として示したが、この順番どおりに育つものではないと考える。そのため、具体的評価基準を示したスキルマップ(読み取りシート、P. 22~23 参照)を使用する。下記の項目について、幼児の育ちを読み取れたときに、シートに印を付け記録することで、教師同士で共通理解を図る材料とする。

表 4 自立心・協同性の具体的評価基準(筆者作成)

目安となる年齢	4 歳児		5 歳児		
自立心	やりたいことを自分で選んで行動する	自分の力でやろうとする	いろんなことに挑戦しようとしている	失敗してもできるまで続けることができる	諦めずにやり遂げる
協同性	自分の思いや考えを友達に伝える	友達の思いや考えを知る	友達と思いや考えを共有する	互いの良さを認め合いながら、協力したり折り合いを付けたりする	共通の目的に向かって、友達と一緒に試行錯誤しながらやり遂げる

(2) 幼児自身の評価

劇づくりの中で幼児自身が、自分で頑張ったことやできるようになったことを自覚し、自信をもって日常生活に生かせるようにするため、育ちの見える化を行う。見える化の方法は、活動の中で次の事柄(楽しい劇づくりについての約束)を守れたかどうかを幼児自身が振り返り、達成の度合いに応じて掲示してあるシートに印を付けていく(図 3)。振り返りの見えるかは幼児が自分自身の達成度を目で確認することができ、育ちや課題を自覚したり、満足感を味わったり次の活動への意欲を高めたりすることにつながると考える。(はっぴいちゃんの金の池、P. 22 参照)

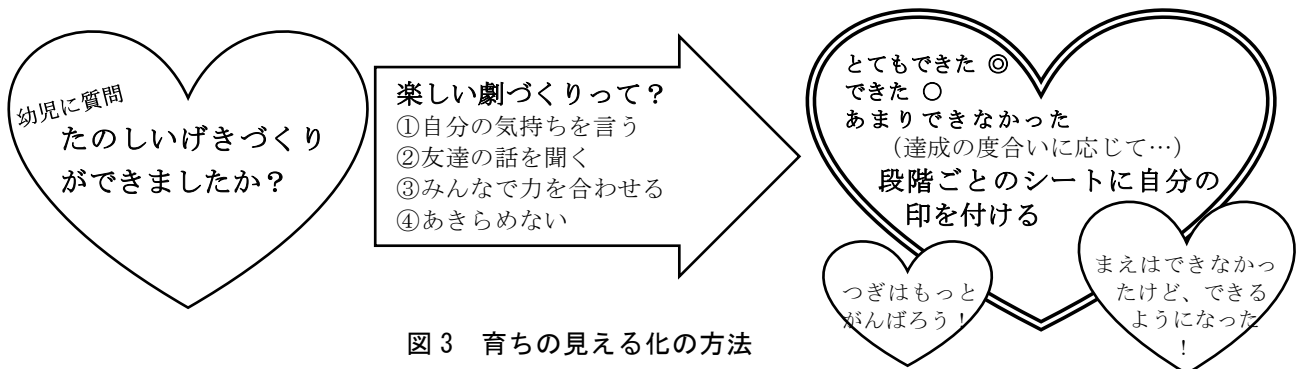


図 3 育ちの見える化の方法

(3) 保護者による評価

劇づくりについての園通信「はっぴいつうしん」を発行し、自立心や協同性の育ちの視点や劇づくりのねらい、過程、幼児の様子、教師の援助等について保護者へ知らせる。保護者は通信を読むことで教師と共通の視点を持ち、変容の読み取りや活動を理解することにつながると考える。また、生活発表会終了後にアンケートを実施し、保護者の意見や幼児の変容について調査する。

V 保育実践

1 検証保育の事前・事後の保育実践計画

- (1) 共通目的：「みんなが楽しい劇づくり」をしよう
 (2) 約束：自分の気持ちを言う、友達の話聞く、みんなで力を合わせる、諦めない
 (3) 劇のテーマ：はっぴいちゃん（亀）

はっぴいちゃんとは、今年度幼児が園庭で見つけて捕まえた子亀である。飼育の方法や餌、気を付けることなどを自分たちで調べて話し合い、園で飼うことになった。大切に世話をしていることから、幼児が共通して興味関心をもっている事柄である考え、劇のテーマとして設定した。

(4) 活動計画

実践	日	劇づくりの過程と内容	ね ら い	読み取りの視点（自：自立心、協：協同性）
1	11/9 (火)	【開始期】 軸となるテーマや物語を決める	○劇づくりに向けてイメージを広げる。	*物語の世界を十分に楽しんでいるか。
2	11/11 (木)	・絵本を読み、物語の世界観を楽しむ。	○思いや考えを友達と伝え合おうとする。	*劇づくりについて「やってみよう」と前向きな期待を持っているか。（自）
3 記録 ①	11/17 (水)	・全員で話し合い、どういう劇にしたいかなどを見いだす。		*自分の気持ちを言えているか。（自） *劇づくりをしていくための共通の目的を見いだしているか（理解しているか）。
4 記録 ②	11/18 (木)	【初期】 登場人物になりきる いろんな場面を想像し遊ぶ	○イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	*登場人物についてイメージを広げて表現しているか。（自）
5	11/26 (金)	・様々な動物になりきり、いろいろな動きをする。 ・表現を見せ合い、互いの良さを認め合う。	○演じて遊ぶ楽しさを味わう。	*イメージを体で表現することを楽しんでいるか。 *友達の表現を見て、いいところを見つけて伝えたり、真似したりしているか。
6	11/30 (火)	【中期】 演じる場面、順番を決める	○個々のイメージを広げ、友達と一緒に表現することを楽しむ。	*自分がやりたい役を、自分で決めることができているか。（自）
7	12/1 (水)	配役を決定し演じる 必要な道具や衣装を決め、準備する	○友達と協力したり折り合いを付けたらしながら作り上げる楽しさを味わう。	*役や場面について、友達と話し合っていて決まることができているか。（協）
8	12/2 (木)	・場面や配役について話し合っていて決める。	○友達と協力をしながら作り上げる楽しさを味わう。	*場面ごとに演じる中で、表現の仕方について、友達とイメージを広げながら話し合っているか。（協）
9 検証 記録 ③	12/3 (金)	・イメージを豊かにし、物語の世界を表現する。 ・場面ごとに話し合い、演じる。 ・必要な道具や衣装について話し合い、作り始める。	○友達と共通の目的をもち、考えを出し合いながら劇づくりを進めていく。	*互いに伝え合い、認め合う姿が見られるか。（協） *演じる中で、必要な道具や衣装について自分たちで考えているか。（協） *困難なことにも挑戦しようとしているか。（自）
10	12/7 (火)	【後期】 場面ごとに舞台上で演じる。	○友達と共通の目的に向かって、試行錯誤しながら劇づくりを進める。	*舞台上で伸び伸びと表現できているか。（自）
11	12/8 (水)	表現の仕方（声の出し方や動き）について話し合い、より良くする。	○友達と協力したり折り合いを付けたらしながら作り上げる楽しさを味わう。	*劇をより良くするための話し合いができているか。（協）
12	12/9 (木)	・舞台上で場面ごとに演じて見せ合ったり、全体を通して演じてみたりする。	○自分の力を発揮して取り組み、満足感を味わう。	*話し合いが上手いかわからなくても、乗り越えようとしているか。（協） *友達の思いや考えに気付き、思いやりをもって接しようとしているか。（協）
13 記録 ④	12/14 (火)	・演じる楽しさを感じながら、楽しい表現や伝わる表現についてアイデアを出し合う。		*共通の目的を意識しながら、劇づくりをしているか。（協）
14	12/15 (水)	・道具や衣装を仕上げ、実際に使いながら、出し方などを考える。		*イメージを広げながら、衣装や小道具を仕上げているか。 *困難なことにも諦めずに挑戦しているか。（自）
15	12/16 (木)	【仕上げ・確認】 ・本番同様に演じ、表現や衣装、道具、進行について確認する。	○本番に向けて、互いに認め合い、期待を高める。	*自分たちで必要なものを確認することができているか。（自） *発表会に期待をもっているか。
16 記録 ⑤	12/17 (金)	【当日】 ・自分の力を十分に発揮し、友達と協力してやり遂げ、達成感と満足感を味わう。	○友達と共通の目的に向かい、心と力を合わせ、やり遂げる。	*自分の力を十分に発揮し、やり遂げようとしているか。（自） *友達と力を合わせ、自分たちで進めることを楽しんでいるか。（協）
17	12/20 (月)	【振り返り】 ・ビデオや発表で生活発表会を振り返り、頑張ったことや嬉しかったことを思い出す。 ・互いに認め合い、自信をもつ。	○生活発表会を振り返り、認め合うことで自信をもつ。	*振り返りの中で、自分の思いや考えを話すことができているか。（自） *自分の成長を自覚し、自信をもつことができているか。（自） *友達と互いの良さを認め合うことができているか。（協）

2 保育実践の記録

(1) 記録1 (実践③)

日時：11月17日(水) 活動名：「どんな物語にする？」 対象：年長児11名

ねらい：劇づくりに向けてイメージを豊かにする。

思いや考えを友達と伝え合おうとする。

● 幼児の動き ◎ 教師の援助 □ 環境構成	幼児の言葉 教師の言葉	幼児について
活動内容	環境構成・援助	読み取り 自：自立心、協：協同性
<p>● 劇の様子を見る。</p> <p>声がめっちゃおっきい！ おもしろいね</p> <p>お客さんがいっぱいいる！</p> <p>絵本とすこしちがう・・・ ウヒアハと友達になってるね</p> <p>● 自分たちがどんな物語をするか話し合う。</p> <p>● 中心となるイメージがわかり、これまで読んできた絵本の世界観を選んだり合わせたりしながら物語を作る。</p>	<p>□ 劇について共通のイメージが持てるよう、他園の発表会の劇の動画を準備する。</p> <p>◎ 違いに気付いたことをほめる。</p> <p>◎ 劇づくりや話し合いの約束を伝える。 ① 自分の気持ちを言う ② 友達の話聞く ③ 友達と力を合わせて頑張る ④ あきらめない</p> <p>◎ 幼稚園の亀(はっぴいちゃん)を中心に物語を作っていくことを話す。</p> <p>◎ 話し合いのきっかけを作り、話し合う様子を見守る。</p> <p>◎ 幼児同士で上手く伝え合えないときは、「(こういう)ことかな？」等と言葉を補う。</p>	<p>* 同年齢の子が演じる劇を見て、大きな声で演じていることに驚いている。</p> <p>* 「楽しそう」「かわいい」と劇に対して期待を持ち始めている(自)。</p> <p>* 絵本そのままではなく、少しアレンジすることで楽しくできていることに気付いた。</p> <p>* はじめは様子をうかがいながらだったが、徐々に「言いたい人いる?」「もっとある?」と声をかけ合うようになってきた。 (協)</p> <p>* 友達の考えを認めている。</p> <p>* 少しずつ意見を合わせて物語を一つにしようとしている(協)。</p>
<p>ぼうけんじゃないほうがいいな～</p> <p>いろいろなお話をすこしずつ入れてみたい</p> <p>それもいいね～!</p> <p>● 自分たちで決めたお話を確認し、決まったことを喜ぶ。</p>	<p>ぼうけんのおはなしがいいんじゃない?</p> <p>たくさんアイデアがでたね、どうしたら決まるかな?</p> <p>「いいね～」ってすてきなことばだね!</p> <p>◎ 自分たちで話し合って決めることができたことを一緒に喜ぶ。</p>	<p>I 児</p> <p>* イメージがわからないのか、ハンカチをいじり、話し合いに参加できていない様子。友達に注意されて泣く。 → 謝られても泣き続ける。</p> <p>◎ 落ち着くよう話し、どうして注意されたのか、一緒に考える。</p> <p>* 話し合いの進め方や、いろいろな意見の合わせ方、みんなで決めていく方法がわかり、達成したことで満足している(協)。</p>

(2) 記録2 (実践④)

日 時：11月18日(木) 活動「演じて楽しもう！」 対象：全員

ねらい：友達と一緒にいろいろな役になりきって演じる楽しさを味わう。

セリフや動き方などがわかり、自分なりに表現する楽しさを味わう。

●幼児の動き ◎教師の援助 □環境構成		幼児の言葉	教師の言葉	幼児について 読み取り
活動内容	環境構成・援助			自：自立心、協：協同性
<p>●年長児から年中児へ、話し合って決めた物語の大筋を伝える。</p> <p>●「はっぴいちゃん役」と「出会う亀役」になりきり、演じて楽しむ。</p> <p>●友達と初めて会ったとき何て言う？仲良くなるために何を？を考えながらやってみる。</p> <p>「こんにちは！ 私たちは〇〇ゲームです。」</p> <p>「何して遊ぶ？ おにごっこ？」</p> <p>「きゃ～！ はっぴいがきた～！」</p> <p>●「つぎは～役やってみる」「さっきと違うの(遊び)やりたい」と役や動きを変えながら演じる。</p>	<p>◎年長児が伝える姿を見守り、伝わりづらいところや言葉が足りない部分を補う。</p> <p>◎手を挙げた幼児数名から始める。</p> <p>◎無理強いせず、やりたくなるような雰囲気づくりや声かけをする。</p> <p>◎イメージできるように「こんなときどうする？」等の問いかけをする。</p> <p>◎幼児の自由なイメージを共に楽しみ、また楽しみながら演じる姿を認める。</p> <p>◎まだ演じていない子へ、仲のいい友達とやってみないか声をかける。</p>	<p>「はっぴいです。 お友達になろうよ！」</p> <p>「はっぴいちゃんたち、 どうやったらお友達になれるんだろう？」</p> <p>「仲良くなるために、 おんぶしてあげるよ。」</p> <p>「さんぽにいこう。 あ・る・こ～ あ・る・こ～♪」</p>	<p>「はっぴいについてお友達になろうよ！」</p> <p>「はっぴいちゃんたち、どうやったらお友達になれるんだろう？」</p>	<p>*年中児はどんな物語か一生懸命聞き取ろうとしている。</p> <p>*進んで手を挙げて演じだした幼児と、恥ずかしがってなかなか手が挙がらない幼児がいる。</p> <p>*イメージを広げながら、アドリブでの演じ遊びを楽しんでいる(自)。</p> <p>*カメの動きや遊び方のイメージを友達同士で共有している(協)。</p> <p>*舞台・客席を決めていなかったため、保育室全体を使った、伸び伸びとした演じ遊びができています。</p> <p>*セリフや動きもアドリブだったため、演じながら互いに表情を見たり、相談したりし、楽しみながら演じきろうとする様子がみられた。</p> <p>*友達の反応を見て喜び、「次はこうしてみよう！」とどんどん意欲的になってきた。(自)</p> <p>*手が挙がらなかった幼児も、緊張しながら友達と演じることができ、嬉しそうな表情を見せている。(自)</p>

実践後

物語が決まり、大筋の流れに沿った演じ遊びを終え、現時点での幼児自身の自己評価を行った。

「自分の気持ちがあまり言えなかった」「(どきどきして)あんまり楽しくできなかった」等の評価(金の池・普通の池)が約9割だった。回を追うごとに評価が上がる(金の池が増える)よう工夫していく。



【金の池】
約束全部守れたよ！！
とっても楽しくできた！



【銀の池】
約束守れなかったところもあったけど、楽しくできたよ！！



【普通の池】
約束あんまり守れなかった。あんまり楽しくできなかった。

3 検証保育

(1) 日程について

日時：令和3年12月3日（金）9時30分～10時30分

場所：石垣市立わかば幼稚園

対象：ちゅうりっぷ組（年長児）12名・すみれ組（年中児）9名 / 計21名

保育者：玉城志織

(2) 活動名 みんなで劇をつくろう

(3) 活動のねらい

<ちゅうりっぷ組（年長児）>

- ・できないことや難しいことにも挑戦し、満足感を味わう。
- ・共通の目的に向かい、友達と協力したり話し合ったりし、試行錯誤しながら活動することを楽しむ。

<すみれ組（年中児）>

- ・自分の役割ややりたいことに挑戦し、満足感を味わう。
- ・友達と思いや考えを伝え合いながら、表現する楽しさを味わう。

(4) 活動について

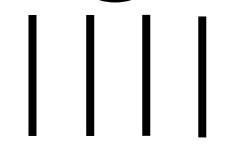
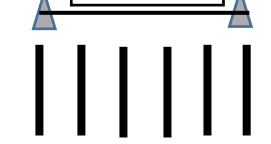
① 教材観

劇づくりとは、舞台上で上演するために、まとまった劇を作り上げる活動である。これまで様々なキャラクターや動物になりきって遊んでいた幼児だが、9月の誕生日会では出し物として、6名の幼児が好きなアニメから物語を考え、劇場ごっこを楽しんだ。また、今回の劇づくりのテーマである「亀」は、園庭で捕まえた子亀について、飼うための方法や餌、気を付けることなどを図鑑で調べ、全員で話し合い、飼うことが決まった。大切に世話を続け、園全体で共通して興味関心をもっている事柄である。

幼児の興味関心のあるテーマを用いて劇づくりを進めることはイメージを共有しやすく、共通の目的に向かい意欲的に取り組むことにつながると考える。劇づくりの活動では、一人一人に出番や役割があり、表現したり挑戦したりしていく中で自立心が育まれ、また、共通の目的に向かい、全員で取り組む中で協力したり工夫したりする経験や、様々な葛藤体験の中で折り合いを付けていく経験を重ねることで協同性が育まれる。本時は、1か月にわたる劇づくりの中期の活動にあたる。共通の目的やイメージをもった幼児が、それぞれの場面において考えを伝え合いながら表現し、工夫しながら劇の場面を作っていくことで、楽しさや満足感を味わうことができると考える。

② 幼児観

本園の幼児は様々なことに興味関心を持ち、友達と関わりながら遊びを楽しんでいる。2学期後半、年長児は就学に向けて期待が高まり、諦めずにやり遂げようとする自立心や、友達と一緒に協力したり折り合いを付けたりしながらやり遂げようとする協同性が発揮されていく時期である。年中児も、様々なことに挑戦しようとしたり、友達の中で自己発揮したり、相手の思いを受け止めようとする時期である。しかし、遊びや活動の様子を見てみると、自分の気持ちを上手く伝えられない様子や、押し通しすぎてしまう様子、やりたいことに挑戦せず諦めてしまう様子が見られた。幼児が集団の中で自己発揮しながら表現し、話し合っていて決めていく経験を重ね、自信をもって自分たちで遊びや活動を進める幼児を育てていきたい。

令和3年12月3日(金) すみれ組(年中児): 男児3名 女児6名 計9名 ちゅうりっぷ組(年長児): 男児4名 女児8名 計12名 合計21名		教諭	玉城 志織
ねらい	【4歳児】 ○自分の役割ややりたいことに挑戦し、満足感を味わう。 ○友達と思いや考えを伝え合いながら、表現する楽しさを味わう。	研究仮説1	劇づくりにおいて、幼児が安心して自己発揮したり、友達の良さや考えの違いに気付いたりできるような環境構成を工夫することで、幼児同士が協力したり折り合いを付けたりし、試行錯誤しながら劇づくりを進めることができるだろう。
	【5歳児】 ○できないことや難しいことにも挑戦し、満足感を味わう。 ○共通の目的に向かい、友達と協力したり話し合ったりし、試行錯誤しながら活動することを楽しむ。	研究仮説2	共通の目的に向かう中で、教師が幼児理解に基づいた援助を工夫することにより、安心して友達と試行錯誤しながらやり遂げる体験を通して自立心や協同性が育まれ、自分たちで遊びや活動を進める力が育つだろう。
時間	●予想される活動	◎教師の援助 ★個別への配慮	□環境の構成
8:00	●登園、所持品の始末 ・朝の活動 ・好きな遊び		
8:45	●片付け、手洗い、うがい、排泄、水分補給		
9:00	●朝の会 ・出欠確認 ・検証保育について ・ゲーム	◎朝の会で、本日の活動の流れについて説明する。 ◎楽しい雰囲気でのミニゲームをし、緊張をほぐせるようにする。	□幼児が見通しをもって活動できるように、掲示物で可視化する。
9:30	●劇づくり ○今日やることや、がんばることなどを確認する。 ○場面ごとに分かれる。 ・役になりきって演じる。 ・立ち方やセリフなど表現について「こうしてみよう」や「こうしたい」「もっとよくするには」等について話す。	◎劇づくりについて、約束、目標などについて話し合い、確認する。 ◎全体を見ながら、場面ごとの取り組みの様子や話し合いの様子を見守り、必要な援助を行う。 ★不安そうなお子や自分の意見を伝えられていない子、緊張して表現を楽しめていない子が予想される。見守りながら、一緒に演じたり、仲介したりするなど、個に応じた声かけや援助を行う。 ◎様子を見ながら集まる時間をあらかじめ伝え、見通しをもって取り組めるようにする。 ◎みんなの前でも元気に演じられるような雰囲気づくりをする。 ◎教師が主導しすぎないように気を付ける。 ◎必要に応じて問いかけたり、認めたりするなどの援助をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ≪劇づくりの約束≫ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ≪場面ごとの掲示≫ ・出る人 ・何をするか </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ≪ハッピーちゃんの金の池≫ ・幼児自身の評価の見える化 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">ピアノ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;">ロッカー</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px;"></div> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <input type="checkbox"/> 集まって見せ合うときは、演じる場所と観る場所を意識できるように印を付ける。 <input type="checkbox"/> 場面ごとに演じて話し合えるよう、それぞれの練習場所を決める。 <input type="checkbox"/> 伸び伸び表現できるように、場所を整える。 </div> <div style="margin-top: 10px;"> <input type="checkbox"/> …掲示物 <input style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; display: inline-block; vertical-align: middle;"/> …場面ごとのグループ (3~4人) </div>
9:45	○全体で集まる ・みんなの前で場面ごとに演じてみる ・よかったところを認め合ったり、「こうしたらもっといい」の考えを発表したりする。	◎活動振り返り ・活動振り返りの感想を発表する。	
10:15	○全体の振り返り ・活動振り返りの感想を発表する。	◎活動振り返ることができるような声かけをする。	
10:20	○個別の振り返り ・楽しく表現できたかや自分の気持ちを言えたか、友達と一緒にがんばることができたか等について振り返る。(はっぴいちゃんの池に印を付ける)	◎友達が頑張っていたことや良かったところと一緒に振り返り、互いに認め合いができるようにする。 ★活動をしっかり振り返ることができるように、一緒に考えたり、問いかけを工夫したりする。	
10:30	●おわりのあいさつ ●片付け ・使った道具などを片付け、次の活動にうつる。	◎頑張ったことやできるようになったこと、楽しみながらできたことなどを認める声かけをし、自信や次の活動への意欲につながるようにする。	
評価	検証項目	検証観点	集まりのとき
評価	環境構成	・幼児が自分で考えたり意識したりできるような環境になっているか(掲示物)。 ・伸び伸びと演じたり、楽しい雰囲気話合ったりできるような場ができていますか。	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">教師</div>  (グループごとに整列する) </div>
	教師の援助	・主導しすぎず、幼児の主体的な活動の展開を援助できているか。 ・活動の様子を見守り、個に応じた援助(声掛け・励まし・寄り添い・ほめる・仲介・アドバイス等)ができていますか。	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">演じる場所</div>  (場面のチームごとに整列する) </div>
	幼児の姿	・表現することを楽しんでいるか。 ・友達と一緒に思いや考えを伝え合ったり、考えたりしているか。 ・友達と工夫し合いながら劇をつくることを楽しんでいるか。 ・できるようになったことや頑張ったことを振り返り、満足感や次の活動への意欲を感じているか。	

(6) 記録③ (本時：実践⑩)

●幼児の動き ◎教師の援助 □環境構成		幼児の言葉	教師の言葉	幼児について 読み取り 自：自立心、協：協同性
活動内容	環境構成・援助			
<p><場面ごとの練習></p> <ul style="list-style-type: none"> ●各場面に分かれて練習を始める。 ●休みが多いところは別の場面と一緒に練習をする。 ●縄跳びや鉄棒などの道具を使い、順番を決めたり、実際にやってみたりする。  <p>なわとび、どうやって置いたらいいんだろうね？</p> <p>取りやすいように、はずして並べるんだっ！！</p>	<p>◎今日の流れを説明し、場面ごとの練習終了時刻を予め知らせる。</p> <p>◎一人しかいないところに声をかけ、他の場面と一緒に練習するよう声をかける。</p> <p>◎保育室を広々使えるよう、各チームに広がるよう声をかける。(□安全面の配慮)</p> <p>◎各場面をまわり、つまづいているところを見守ったり、声かけしたりする。</p>  <p>なわとび、もうすこし練習したほうがいいかな〜とおもった。</p> <p>なわとび、もうすこし練習したほうがいいんじゃない？って言うけど、どう思う？</p> <p>もう少し練習がんばりま〜す！</p> <p>頑張れパワー！がんばれ〜！！</p> <p>□思いや考えを伝え合える場の設定 ◎必要に応じて思いや考えの橋渡しをする</p>			<p>*自分の運動遊びを練習したいと嫌がるが、説明を聞いて納得することができた。</p> <p>*欠席の役を考慮し、別の幼児が代わりに行うなど臨機応変に対応しようとしている。</p> <p>*互いに声をかけたり、教え合ったりしながら練習を進めている。(協)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●時計を確認し、終了時刻になったことを知らせ合う。 <p><場面ごとに前で演じて見せ合う></p> <ul style="list-style-type: none"> ●道具を準備し、みんなの前で演じてみる。 ●演技を見た後、観客役は「よかったところ」「こうしたほうがいいところ」等を発表する。 ●友達を応援したり、一緒に喜んだりしている。  <p>昨日できたんだけど・・・アゴ打ったから痛い。</p> <p>もう少し練習がんばりま〜す！</p> <p>頑張れパワー！がんばれ〜！！</p> <p>がんばって、できていてすごかった！</p>	<p>◎一人一人と話し、今日の活動をしっかり振り返ることができるようにする。</p>  <p>この前は普通の池だったね。今日はどうだった？お約束守って楽しくできた？</p> <p>ん〜…今日は全部約束守れたから金の池と思う。</p>			<p>*時計を見て、自分たちで活動の区切りを判断できている (自)</p> <p>*見られて緊張している様子があるが、チーム内で声をかけ合っている。(協)</p> <p>*頑張っているところを認め合っている。(協)</p> <p>*より良くするための方法を考え、自分の言葉で伝えている。(自、協)</p> <p>*失敗して諦めそうになったが、友達の声かけで何度も挑戦している。(自)</p> <p>*みんなで応援し、できたことを喜びあっている。(協)</p>
<p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ●活動を思い出し、自分が頑張ったことや約束を守れたことなどを振り返る。 ●自分の印(はっぴいちゃん)を、段階に応じた池に貼っていく。 <p>やったー！金の池に貼ろうっ！！</p>	<p>*前回より頑張れたことを自覚でき、次の池に移せることを喜んでいる。</p> <p>*金の池に貼れなかった子は「次は金に行けるように頑張る」と意欲を見せている。(自)</p>			
<p><考察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとの練習では、前回出た改善点を確認し、「こうしてみよう」と自分たちで工夫する様子が見られた。 ・「これはよかった」「がんばっていた」と互いの良さを認めつつ、「もっとこうしたらいい」「つぎはこうしてみる」など協力し試行錯誤する様子も見られた。 ・できないことにも諦めずに何度も挑戦する様子が見られる。 ・時計を意識しながら活動し、終了の時刻になったことをみんなに知らせている。 ・それぞれのイメージで演技をしているが、固定された動きやセリフが多く見られるため、もう一度「楽しい劇」についてイメージや考えを共有し、自由な表現ができるようにする必要がある。 	<p>協同性の芽生え</p> <p>自立心の芽生え</p>			

<保育研究協議会の記録>

保育者の反省

- 園庭で見つけた亀について調べたこと、誕生会での劇場ごっこを体験したことから、今回の実践につながり、「楽しい劇づくり」が始まった。9月の劇場ごっこの準備では「先生がいないから話し合いをしていない」という言葉も出ていたため、劇づくりの約束、劇のイメージを共有、話し合いの場を工夫した。話し合いの場では、いくつかの案を合わせる・話し合っただけよりいいほうを選ぶ（譲る）・全然違うものを考えるなど、様々な折り合いの付け方が見られ、気持ちを調整する力の育ちを感じた。
- 固定されてきた動きやセリフを、さらに楽しい劇につながる自由な表現ができるよう、援助を工夫していく必要がある。
- 個別の読み取りを予定していたが、長期の欠席をした幼児（劇づくりにほとんど参加できていない）への援助の工夫が必要である。

参観者からの感想・助言

- 教師の援助（声かけ・肯定的な注意・言葉遣い・幼児への配慮・支えっぱなしではない「自分でやっとな）絶妙なやり取りをみて、良いと思った。
- 年長児が率先して活動し、ここはこうしたほうが良いよねといった具体的なアドバイスも見られた。
- いろいろな特性の幼児がいるが、うまく融合して活動できていた。
- 振り返りを幼児自身でさせ、他の幼児も受け止めていた。
- 発表タイムで、年長児でしっかり発言できていても教師が全部復唱していたので、復唱が必要なのか疑問に思った。
- グループ活動で、声かけが必要な幼児をグループから離すのではなく、「あの子も引っ張って一緒に活動してあげてね」という支援のほうが良かったのかなと思った。
- 発表（意見の伝え合い）の場面でも、教師が指名するのではなく、幼児がお互いに指名させてもいいと思う。やりとりも生まれる。教師が指導する場面と幼児に任せる場面を作っていければよい。
- どういう劇を作ろうというのを幼児ともっと話し合っただけで落とし込むとさらに良い劇ができる。
- 「頑張ると言ったらみんなもっと楽しくなるよね」等というような、いろいろな価値づけをあげると、幼児がもっと考えるようになる。
- 幼児が考えて工夫したところを、教師が言葉にして気付かせてあげるともっと楽しい劇ができるとポテンシャルを感じた。

指導主事からの指導助言

- 劇づくりで、園庭で子亀を見つけたところから始まり、そこから話を聞き、見て、話し合っただけで劇づくりにもっていくという発想が素晴らしかった。
- 日案に4・5歳それぞれのねらいがあり、5領域・10の姿が入って、自立心・協同性が組み込まれ、今日の保育をしようという姿が見られた。
- 随所に見られた確認や声かけが良かった。
- K児の頑張りを待てたのは、担任として見てきて「この子ならできる」という信頼関係があったと思う。
- ナレーターや、補助資料にあらずじがあると良い。
- 幼児の間違った言い方（ぶどお）をさりげなく正しい言い方（ぶどう）に言い直し、教えてあげると良い。





4 検証保育後の実践の記録

(1) 記録④ (実践⑬)

日 時：12月6日(月)～16日(木) 活動「見ている人に楽しいが伝わる劇って？」

対 象：全員

ねらい：友達と共通の目的に向かって協力し、試行錯誤しながら作り上げる楽しさを味わう。
自分の力を発揮して取り組み、満足感を味わう。

● 幼児の動き ◎ 教師の援助 □ 環境構成		幼児の言葉	教師の言葉	幼児について
活 動 内 容	環 境 構 成 ・ 援 助			読み取り 自：自立心、協：協同性
<p>● 舞台上で演技、他のチームのいいところや友達のいいところを真似したり、考えたりしながら、より楽しいが伝わるように工夫する。</p>  <p>こうやってとぶとたのしいね!</p> <p>あと1回!</p> <p>うん! あと何回とぶ?</p> <p>いっしょにあそぼう?</p> <p>わたしたちはきらぼしがめです!</p>	<p>◎ 幼児が演技しているところを動画で撮影し、振り返りのために見せる。 ◎ 幼児が工夫している姿を認め、一緒に喜んだり楽しんだりする。</p>			<p>* 自分が演技している様子を動画で観たことで、声の大きさや動きがわかり、より良くしようとする姿につながっている(自)</p> <p>* 見ている人に「楽しく遊んでいる」ことが伝わるよう考え、遊んでいる間のセリフが出てきた。</p> <p>* カメの名前をもとに、動きを話し合っ決めて、表現するようになってきている。</p> <p>* 自分たちの動きを動画で観た後の2回目の挑戦では、みんなが見えるように立ち位置を考える等、工夫する姿が見られる(協)</p>
<p>● 衣装づくりをする。 ・ 段ボールへの色を塗る。 ・ それぞれのイメージをもとに、飾り付けをする。</p>  <p>コウモリガメだから黒色!あとは羽を付けるだけ!!</p> <p>うん、そう!これ、切り紙でつくったんだよ。教えてあげる!</p>	<p>◎ 幼児がイメージを表現できるように、話を聞き、材料を準備する。</p>			<p>* それぞれ決めたカメ(役)のイメージを広げ、表現している。</p> <p>それなに?ゆき?</p> <p>* 自分がつくった飾りを、年中児にわかるように教えている。(協)</p>
<p>● 自分が見せたい運動遊びを練習する。</p> 				<p>* 諦めずに何度も挑戦している。(自)</p> <p>* 練習以外の遊びの時間にも自分で考え練習する姿が見られる(自)。</p>

(2) 記録⑤ (生活発表会本番、振り返り)

日 時：12月17日(金)生活発表会本番、20日(月)振り返り

対 象：全員

ねらい：友達と共通の目的に向かい、心と力を合わせてやり遂げ、達成感を味わう。

生活発表会を振り返って友達と認め合うことで、満足感を味わい、自信をもつ。

●幼児の動き ◎教師の援助 □環境構成		幼児の言葉	教師の言葉	幼児について 読み取り 自：自立心、協：協同性
活 動 内 容	環 境 構 成 ・ 援 助			
<p>●生活発表会本番</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇の準備(看板や草を出す)では声をかけ合いながら自分たちで準備する。 ・力を合わせながら、楽しく演技をする。 ・最後のポーズを忘れていたことを思い出し、舞台袖に戻らず、不安そうにしている。→ ・列に入れずウロウロしていたが、自分から「入れて」と声をかけ、列に入ることができた。 	<p>◎必要に応じて、手伝う。</p>   			<p>*準備の順番が違ってても、自分たちで考え、声をかけ合いながら準備を進めることができています。(協)</p> <p>*視線を送る、周りの子が気付いて声をかけるなどしながら、乗り越えている。(自、協)</p> <p>*諦めずに列には入れたことで、安心した表情を見せている。</p> <p>*セリフ忘れや、運動遊びを失敗する場面もあったが、互いに笑顔を向けながらやり遂げようとしている(自、協)。</p> <p>*劇を最後までやり遂げた達成感から、ほっとした様子や笑顔が見られる。(自、協)</p>
<p>はっぴーー！！</p> 	<p>◎楽しい雰囲気動画を観ることができるように見守る。</p> 			<p>*自分が頑張ったことを動画で観ることで更に実感し、満足感を味わっている。(自)</p> <p>*友達の頑張りが成長したことを見付け、認め合っている。(協)</p>
<p>〇〇さん、上手になったよね～</p> <p>そうだね、頑張ってたよね!</p> <p>このとき転んだけど、面白かった!</p> <p>転んでも、最後までにこにこできたのはえらかったよね!</p>	<p>◎幼児同士の会話を大切にして、必要に応じて認めたり同意したりする。</p>			

5 幼児の変容

(1) 個々の育ち

抽出児の育ちや変容について、活動における幼児の姿やスキルマップから読み取る。

① 年長G児

自分の好きな遊びを思い切り楽しむ事ができるが、主張がぶつかったときに思いを押し通そうとする、解決を諦める、大人に解決してもらおうことを求める等、話し合いで決定していくことが苦手であった。また、苦手なことに諦めずに挑戦することが苦手である。



① 演じ遊びにて
遊びの段階であった為、気軽に話し合っている。2つの意見を合わせる方法にて解決。時間をかけず決定でき、笑顔で演じ遊びを楽しんだ。



② 劇づくり中期にて
この話し合いで本番の役が決まることから、決定までに時間がかかる。自分の意見が通らず、泣いてしまう。その後、別の時間を使い、全員が納得いくまで話し合いをし、決定することができた。

G児の自立心読み取りシート

時期	やりたいことを自分で選んで行動する	自分の力でやろうとする	いろんなことに挑戦しようとしているか	失敗しても出来るまで続けることができるか	諦めずにやり遂げる
初期(11月18日)					
中期(12月3日)					
最終(12月20日)					
その後(1月21日)					
7	G児	○	○	●	●

G児の協同性読み取りシート

時期	自分の思いや考えを友達に伝える	友達の思いや考えを知る	友達と思いや考えを共有する	互いの良さを認め合いながら、協力したり折り合いを付けたりする	共通の目的に向かって、友達と一緒に試行錯誤しながらやり遂げる
初期(11月18日)					
中期(12月3日)					
最終(12月20日)					
その後(1月21日)					
7	G児	●	○		

<変容の読み取り・考察>

演じ遊びの中での気軽な話し合いのなかで、「2つの意見を合わせる方法」「譲る・譲られる方法」「まったく違う意見にする方法」等と様々な解決方法を経験できた。その後の話し合いでは、全員が納得するまで諦めずに話し合おうという姿勢が見えるようになってきている。



ただし、年長児後半としての協同性の発揮には課題が見られるため、協力や折り合いを付ける体験をさらに重ねる必要があると考える。また、友達や教師の応援を受けていろいろな運動遊びにも挑戦するようになってきているので、自信と意欲をさらに高めていけるよう援助していく。

② 年長E児

自分で決めたことに挑戦しようとする気持ちはあるが、一人だと途中で諦めることが多い。また自分の気持ちを素直に伝えたり、互いに納得するまで話し合ったりすることも苦手である。



① 場面ごとの練習にて
・少人数のグループでリーダーシップをとる経験
・自分なりにセリフを考え言ってみて、友達に認められた経験



② 本番にて
転んでしまっても、友達が笑いかけてくれ、お客さんから拍手をもらえ、笑顔でやりきった。
→失敗しても大丈夫！
楽しくできた！という経験

E児の自立心読み取りシート

時期	やりたいことを自分で選んで行動する	自分の力でやろうとする	いろんなことに挑戦しようとしているか	失敗しても出来るまで続けることができるか	諦めずにやり遂げる
初期(11月18日)					
中期(12月3日)					
最終(12月20日)					
その後(1月21日)					
5	E児	○	●	○	●

E児の協同性読み取りシート

時期	自分の思いや考えを友達に伝える	友達の思いや考えを知る	友達と思いや考えを共有する	互いの良さを認め合いながら、協力したり折り合いを付けたりする	共通の目的に向かって、友達と一緒に試行錯誤しながらやり遂げる
初期(11月18日)					
中期(12月3日)					
最終(12月20日)					
その後(1月21日)					
5	E児	○	○	○	●

<変容の読み取り・考察>

劇づくりから本番までを通して、少しずつ自己発揮する自信や、友達と協力して進める経験を重ねたE児。その後の保育の中で、自分から大きな声で「～しよう」と友達を誘い、「○○さん、長くオニしたから交代してあげよう！」



と友達を思いやる発言や自分の考えをはっきりと伝える場面が見られた。自立心や協同性が育ってきていると考えられる。

③ 年長 I 児

自分の興味関心のあることを楽しんだり、挑戦し続けたりすることは得意。一方で、自分本位に意見を言い、興味をもてないと話し合いに参加できないことが多い。



①第1回目の振り返り
直前の話し合いにおいて、ハンカチをいじっていて参加できず、友達に注意された。振り返りで普通の池（約束を守れなかった）に貼ることになり、悔しくて泣いてしまう。



②場面ごとの練習にて
2人しかいないチームだが、何度も話し合う場面がある。自分だけの気持ちで決めることができないため、時間はかかるが、意見を出し合って決めることができた。

I 児の自立心読み取りシート

時期	やりたいことを自分で選んで行動する	自分の力でやろうとする	いろんなことに挑戦しようとしているか	失敗しても出来るまで続けることができるか	諦めずにやり遂げる
9 I 児	●	●	●	●	●

I 児の協同性読み取りシート

時期	自分の思いや考えを友達に伝える	友達の思いや考えを知る	友達と思いや考えを共有する	互いの良さを認め合いながら、協力したり折り合いを付けたりする	共通の目的に向かって、友達と一緒に試行錯誤しながらやり遂げる
9 I 児	●	●	●	●	●

<変容の読み取り・考察>

「みんなで力を合わせる」ことがなかなかできなかった I 児だが、劇づくりの約束や振り返り（はっぴいちゃんの金の池）を通して、話し合うことや力を合わせることを意識するようになった。集団の中で自己発揮する経験や協力して活動する経験ができ、自信がついたようだ。その後の遊びの中でも「つぎやったら勝てるかもしれない！」などチームを励ます様子も見られ、個ではなく、自分もチーム（集団）の一員であるという意識につながってきていると考える。

④ 年中 O 児

友達と好きな遊びを仲良く楽しむことができる。一方で自分の気持ちを伝えることができなかったり、集団の中で自分らしさを発揮したりすることが苦手である。



①場面ごとの話し合い
自分でセリフを決めたり、演じてみたりすることに不安そうな表情を見せる。なかなか声が出ないが、小さい声で試してみるから始める。



①繰り返し練習する
何度失敗しても諦めず、好きな遊びの時間も練習している。大きな声でセリフを言えるようになり、より自信をもって意欲的に取り組むようになってきた。

O 児の自立心読み取りシート

時期	やりたいことを自分で選んで行動する	自分の力でやろうとする	いろんなことに挑戦しようとしているか	失敗しても出来るまで続けることができるか	諦めずにやり遂げる
15 O 児	●	●	●	●	●

O 児の協同性読み取りシート

時期	自分の思いや考えを友達に伝える	友達の思いや考えを知る	友達と思いや考えを共有する	互いの良さを認め合いながら、協力したり折り合いを付けたりする	共通の目的に向かって、友達と一緒に試行錯誤しながらやり遂げる
15 O 児	●	●	●	●	●

<変容の読み取り・考察>







集団の中で自己発揮が苦手だった O 児だが、自分の気持ちを伝える経験や舞台での繰り返し練習を通して、徐々に自信がついてきた。また友達から「声が大きくなった」と頑張りを認められたことでさらに自信がつき、表現を楽しみ、自分の考えを伝える等自己発揮につながったと考える。本番では、



練習の成果を発揮しやり遂げ、達成感あふれる笑顔を見せた。劇を通して得た自信や達成感が、その後の日常生活で生き生きと自己発揮しながら、様々な遊びを楽しむ姿につながったと考える。

(2) クラス全体の育ち

① 幼児自身の振り返り（はっぴいちゃんの金の池）より

劇づくり初期	金の池 (2名)	銀の池 (9名)	普通の池 (7名)	「友達の話の聞けなかった」「ドキドキしてあまり楽しくできなかった」と銀・普通の池に貼る幼児が多い。
				
劇づくり終了後	金の池 (18名)	銀の池 (1名)	普通の池 (0名)	欠席が多く活動や振り返りができなかった幼児1名が銀の池だが、それ以外の幼児は活動のたびに移動し、終了後には金の池に貼っている。
				

<考察>

劇づくりの初期に「楽しい劇づくり」をするための約束を確認し、活動ごとに振り返りを行った。幼児が自分自身で振り返り、頑張ったところやできなかったところを見える化したことで、「次は金の池に貼りたい」「今日は気持ちを言ってみよう」と意欲や目的意識をもって劇づくりに取り組むことができた。劇づくりの初期と後期の写真を比べても金の池がふえていることから、幼児が自身の育ちや課題を自覚しながら劇づくりに意欲的に取り組んだことや協同してやり遂げたことがわかる。

② スキルマップ（読み取りシート）より

【自立心読み取りシート】

年中児

		…初期(11月18日)	やりたいことを自分で選んで行動する	自分の力でやろうとする	いろんなことに挑戦しようとしているか	失敗しても出来るまで続け諦めずにやることができるか	諦めずにやり遂げる
すみれ	13 M児	○		○	●	●	●
	14 N児	○		○	○	●	●
	15 O児	○	●		●	●	●
	16 P児	○	●		●		
	17 Q児	○		○		●	●
	18 R児	○		○	●		
	19 S児	○	●		●		●
	20 T児	○	●		●		
	21 U児	○			●		

年長児

		…初期(11月18日)	やりたいことを自分で選んで行動する	自分の力でやろうとする	いろんなことに挑戦しようとしているか	失敗しても出来るまで続け諦めずにやることができるか	諦めずにやり遂げる
ちゅうりっぷ	1 A児	○		○	●	●	●
	2 B児	○		○	○	○	○
	3 C児	○	●				
	4 D児	○					
	5 E児	○	●		●	●	●
	6 F児	○	○		○	●	●
	7 G児	○		○	●	●	●
	8 H児	○			●		●
	9 I児	○	●		●	●	●
	10 J児	○	○		○	●	●
	11 K児	○		●		●	●
	12 L児	○	○		○	●	●

<自立心読み取りシートからの考察>

劇づくりは自分の力を発揮する場面や、自分の役割に取り組む場面が多くあり、多くの幼児の自立心が育まれてきている。「自分の力で」「失敗しても諦めずに」という部分がまだ苦手な幼児もいるため、挑戦すること・やり遂げることを日常生活で意識づけや価値づけし、自立心をさらに育てていく必要があると考える。

【協同性読み取りシート】

年中児

		…初期(11月18日)	自分の思いや考えを友達に伝える	友達の思いや考えを知る	友達を思いや考えを共有する	互いの長さを認め合いながら、協力したり折り合いを付けたりする	共通の目的にわかって、友達と一緒に試行錯誤しながらやり遂げる
すみれ	13 M児	○		○	●	○	●
	14 N児	○		○	○	○	●
	15 O児	●		○	○	●	●
	16 P児	○	○	●			
	17 Q児	○		○	○	○	
	18 R児	○		○	○	○	
	19 S児	○		○	○	○	
	20 T児	●		●	●		
	21 U児	○					

年長児

		…初期(11月18日)	自分の思いや考えを友達に伝える	友達の思いや考えを知る	友達を思いや考えを共有する	互いの長さを認め合いながら、協力したり折り合いを付けたりする	共通の目的にわかって、友達と一緒に試行錯誤しながらやり遂げる
ちゅうりつ	1 A児	○		○	○	○	
	2 B児	○		○	○	○	○
	3 C児	○		○	○	○	
	4 D児						
	5 E児	○	○	○	○	○	○
	6 F児	○		○	○	○	○
	7 G児	○		○	○	○	
	8 H児	○		○	○	○	
	9 I児	○	○	○	○	○	○
	10 J児	○		○	○	○	○
	11 K児	○		○	○	○	
	12 L児	○		○	○	○	○

<協同性読み取りシートからの考察>

話し合っていて決めていく場面が多くあったこと、互いに思いを伝え合い協力しながら劇をつくりあげたことで、協同性が徐々に育まれてきた。また、初めから全員で演じるのではなく、少人数（場面ごと）での話し合い・練習から始めたことで、自分の思いの伝え方や折り合いの付け方がわかり、全体でも試行錯誤しながらやり遂げることにつながりやすかったと考える。協同性の芽生えは見られるが、それを発揮できない年長児も多いため、遊びや活動でさらに育めるよう工夫していく必要があると考える。

(3) 保護者アンケートより

生活発表会終了後に、劇づくりの様子や園通信（「はっぴいつうしん」）を通して感じたことや幼児の変容、感想等についてアンケートを実施した（一部抜粋）。

- 話の内容を子供達だけで考え、意見を言い合ったりして作られたのかと思うと感心させられました。大人たちから「これをしなさい」と言われるのではなく、一から自分たちで作っていくこと、凄くいい経験をしたと思います。
- 「自分が上手にできるように」頑張っていた保育所時代と比べ、「みんなで上手にできるように」の意識が育っているように思いました。
- 今日の自分はどうか、自分自身で振り返り、カメを貼ることや、先生の導き方・見守り方などを感じ入ることが多くありました。
- 子どもの話し方・伝え方に変化がありました。「～したらいいなって思ったよ」「私は～の方が好きだな」「それいいね」…相手を尊重したり、自分の意見を一方的にならないように伝える話し方をすることが増えました。みんなで作った劇の制作途中でしっかり学んだんだと実感しています。
- 詳細はずっと分からずでしたが、「ああここでこんな風に披露する場をもったのか！」と当日見たときに合致した。どこをどう話し合っていたのだろうともっと知りたくなった。

<保護者アンケートからの考察>

「はっぴいつうしん」や幼児との会話を通して、保護者は様々なことを感じ、見守ってくれていたことがわかった。幼児の意識や気持ちの伝え方に変化を感じた家庭もあり、劇づくりのねらいや読み取りの視点を伝えていたことが保護者の自立心や協同性に関する理解と、それを意識することにつながってきていると考えられる。一方で、通信で知らせていたことが伝わっていない様子や、もっと詳しく知りたいとの意見も見られた。園通信を読みやすくするための工夫（内容、量、伝え方等）や、ドキュメンテーションなど園通信以外の伝える方法と工夫が必要だと考えられる。また、年間を通してその他の視点（10の姿）について、通信やドキュメンテーション、面談等で知らせていくことで、育ちや課題について共通理解が図ることができると考える。

VI 研究の考察

1 研究仮説1の検証

劇づくりにおいて、幼児が安心して自己発揮したり、友達の良さや考えの違いに気付いたりできるような環境構成を工夫することで、幼児同士が協力したり折り合いを付けたりし、試行錯誤しながら劇づくりを進めることができるだろう。

(1) 「場」の環境構成

① 見通しをもった劇づくりの計画と活動

劇づくりを開始期～振り返りに分け、活動の過程や幼児の姿、援助や環境構成についての計画を作成したことで、教師は見通しをもって進めることができ、適切な環境構成や援助をすることができた。また活動に見通しをもったことで、教師主導ではなく幼児主体の話し合いや練習の時間を設定できる等、ゆとりをもって劇づくりを進めることができた。

② 演じ遊びの場を多く持つ

物語を演じるだけではなく、自由に想像し演じて遊ぶ時間を多く設定した。表現することに緊張感や苦手意識が強い幼児には、場の雰囲気を楽しむことから始め、友達と誘い合い参加できるよう工夫した。「みんなでやると楽しい」「やってみたら楽しかった」「みんなが笑ってくれると嬉しい」という体験は、自分らしい表現や、安心して自己発揮することにつながった。

P. 13 の記録 2 の演じ遊びの様子からも自由なイメージの表現や友達と演じる楽しさを味わう様子がうかがえる。

③ 話し合いの場の工夫

初めから全員での話し合いではなく、場面ごとに少人数で話し合えるようにした。少人数だと自分の思いも伝えやすく、またその場の全員が納得できる決定をしやすいため、思いを出す体験や折り合いを付ける体験にができ、気持ちを調整しながら自分たちで解決しようとする姿につながった。また、話し合いの時間を確保したことで、幼児がじっくり考え、友達との思いや考えの違いに気付いたり、受け止めたりし、幼児同士が「つながり」、「向き合う」話し合いにつながった。

P. 20 年中G児の変容からも話し合う体験を何度も重ね、折り合いを付けていく様子（気持ちを調整する様子）がうかがえる。

④ 動画を使った振り返り

劇づくりの様子を動画で撮影し、観て振り返った。自分たちが演じている動画を観ることで、声の大きさや立ち位置、楽しさが伝わるかななどを客観的に捉えることができ、アイデアを出し合って試行錯誤しながら劇づくりを進めることができた。

(2) 「人」の環境構成

① 互いの頑張りを認め合い、励まし合える雰囲気づくり

振り返りの場で自分自身の頑張りが楽しかったことだけでなく、友達の良かったところや、アドバイスも伝え合うことで、互いに認め合いながら、より良くしていこうとする意識につながった。教師は、幼児が友達の良いところを見つけたことや、アドバイスを受け入れた姿などを認め価値づけすることで、幼児同士が認め合い励まし合う雰囲気づくりができ、幼児が安心して自己発揮する姿につながった。

② 保護者との連携

「はっぴいっしん」を通して、劇づくりの目的や視点、活動の様子などを知らせたことで、共通理解を図ることができた。また家庭での劇づくりについての会話や励ましの言葉は、幼児が最後まで意欲的に参加する姿につながった。保護者も「ただ観る」だけでなく、協同性や自立心の育ちについての視点をもって観ることができたと考える。

【研究仮説1の考察】

幼児の姿を読み取り、劇づくりのねらいや教師の願いを織り交ぜて計画を作成し、「場」や「人」の環境を構成したことで、幼児が安心して自己発揮したり、幼児同士が関わりを深め、試行錯誤しながら劇づくりを進めることができた。P. 21の年中O児が徐々に自己発揮していく様子からも、少人数の場での自己発揮や友達に認められ応援される温かい雰囲気、安心感や自信につながり、試行錯誤しながら劇づくりに取り組むことができたを読み取ることができると考える。

2 研究仮説2の検証

共通の目的に向かう中で、教師が幼児理解に基づいた援助を工夫することにより、安心して友達と試行錯誤しながらやり遂げる体験を通して自立心や協同性が育まれ、自分たちで遊びや活動を進める力が育つだろう。

(1) 教師の幼児理解と援助の工夫

① 具体的評価基準の設定と読み取りシート（スキルマップ）の活用

活動で育みたい幼児の姿について具体的評価基準を設定し、読み取りシートにて読み取りを行った。具体的な評価基準を設定することで、教師同士が幼児の育ちについて共通の視点で読み取ることにつながった。また読み取りシートは、個々の育ちや課題について一目で把握でき、教師同士が幼児や保育の課題・援助について伝え合いやすくなり、共通理解のもと保育を進めることができた。

P. 22～23の自立心・協同性の読み取りシートの結果からは、期ごとに印が増えて（幼児が育って）いく様子や、個によって育っている力や育つ順が違うことが読み取れる。また、活動を終えて、育ちがあまり見られなかった幼児もいるため、長期的な計画で個に応じた援助をし、自立心や協同性を育てていく必要があると考える。

② 教師の援助

活動における育ちの過程や葛藤場面について予想し、また個々の幼児の育ちや課題を把握したことで、「見守る」「言葉を補う」「問いかける」「価値づけする」など、個や場に応じた援助をすることができた。また、教師は過度にならないように丁寧に読み取って判断し、個や場に応じた適切な援助をしたことで、幼児が安心して友達と試行錯誤しながら活動する姿につながったと考える。

(2) 共通の目的に向かい、友達と試行錯誤しながらやり遂げる体験

① 共通のイメージを持つ

幼児・クラスの興味関心を読み取り、テーマを設定したことで、共通のイメージをもつことができ、意欲的に劇づくりに参加し、最後まで楽しみながら取り組むことにつながった。

② 劇づくりの約束

劇づくりの約束を掲示し、活動のたびに確認したり振り返ったりしたことで、幼児が最後まで意識しながら劇づくりを進めることができた。

③ 幼児自身の振り返り

「はっぴいちゃんの金の池」を使い、幼児自身の振り返りを見える化した。振り返りをする事で今日は頑張ったという満足感や、次はもっと頑張ろうという意欲の高まりにつながった。自身の育ちや課題を自覚しながら劇づくりに意欲的に取り組んだことで、幼児自身の自己発揮や協同して活動する姿につながったと考える。

また教師と1対1で振り返ることで、教師は個に応じた問いかけができ、幼児の頑張りを個別に認めることができた。

【研究仮説2の考察】

教師が活動ごとに幼児の育ちを読み取り、深く理解したことで、幼児の思いや考え、葛藤場面について肯定的に捉えることができ、より個に応じた援助をすることができた。教師の個や場に応じた援助によって、幼児が安心して気持ちを調整する（思いを出す・つながる・向き合う）ことができ、自分たちの力で諦めずに話し合ったり挑戦したりする姿につながったと考える。

共通のイメージや目的をもち、楽しさや頑張りを自覚して、何度も話し合ったり試したりしながら劇づくりをすることで、自立心や協同性が育まれたと考える。また、幼児一人一人に育てている力は違うが、互いに刺激し合い、協力し、友達を思いやる力が育ってきていることで、自分たちの力で遊びや活動を楽しむ姿が見られるようになった。

Ⅶ 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 幼児の育ってほしい姿について具体的評価基準を設けることで、教師同士が共通の視点で幼児を読み取ることにつながり、より充実した保育カンファレンスを実施できた。
- (2) 読み取りシートを活用することで、幼児の育ちや課題が明確になり、教師の願いと活動のねらいを織り交ぜた保育の構想、個や場に応じた環境構成・援助を工夫することができた。
- (3) 演じる場・話し合いの場・振り返りの場において環境構成を工夫したことで、幼児が協力したり折り合いを付けたりし、試行錯誤しながら劇づくりを進めることができた。
- (4) 教師が個や場に応じた援助をしたことで、幼児が安心して自己発揮することや、友達と関わりを深め、認め励まし合う温かい雰囲気づくりができた。
- (5) 劇づくりの活動の中で、共通の目的を掲示し意識させたことで、話し合いが深まり、主張のぶつかりや葛藤場面も自分たちで解決しようとするようになった。
- (6) 友達と試行錯誤しながらやり遂げた経験や、活動を通して得た自信・達成感によって幼児に自立心や協同性が芽生え、自分たちで遊びや活動を進める力が育ってきている。
- (7) 通信を通して、保護者と劇づくりの過程や幼児の様子、読み取りの視点、教師の援助について共通理解を図ることができ、活動への理解や見守りにつながった。

2 課題

- (1) 自立心・協同性以外の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の具体的評価基準を設定して活用し、長期的な計画で育むための工夫。
- (2) 幼児を理解し、集団の中での個（特性や発達）に応じた援助の工夫。
- (3) 保護者へ活動の様子の伝え方を工夫（回数や内容、方法等）。
- (4) 幼小連携・接続を意識し、園での取り組みや幼児の育ちについて小学校と共通理解を図る為の工夫

《主な引用文献・参考文献》

- ・文部科学省 平成 30 年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
- ・無藤隆編著 2018 年 『幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿』 東洋館出版社
- ・關章信 兵頭恵子 高橋かほる 2019 年 『遊びや生活の中で“10 の姿”を育む保育』 チャイルド本社
- ・無藤隆監修 2021 年 『まるっと解説！やさしい三法令』 学研
- ・無藤隆監修 2018 年 『事例で学ぶ保育内容〈領域〉人間関係』 萌文書林
- ・無藤隆 古賀松香編著 2016 年 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」』 北大路書房
- ・神長美津子 岩立京子 岡上直子 結城孝治編著 2019 年 『幼児理解の理論と方法』 光生館
- ・汐見稔幸 2017 年 『さあ、子どもたちの「未来」を話ませんか』 小学館
- ・田川浩三 兵庫保育問題研究会編著 2010 年 『劇づくりで育つ子どもたち』 かもがわ出版
- ・新沢としひこ(文) 後藤美月(絵) 2009 年 『イギリス民話 カメのえんそく』 フェリシモ出版
- ・やぎたみこ 2010 年 『かめだらけおうこく』 イースト・プレス

《参考 URL》

- ・『集団の中で「主体性」を育むために園ができること』 ベネッセ教育総合研究所
https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/booklet_22_p02-15.pdf
- ・『人とのかかわりを豊かにする教育の推進』 兵庫県教育委員会
<https://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/youtien/youtiennsidounotebiki.pdf>